

働き世代の「お口の健康」初調査！



久保田 悠

歯学博士、公衆衛生学修士
公立大学法人神奈川県立保健福祉大学
ヘルスイノベーション研究科 講師

昨年 12 月から今年 3 月にかけて、神奈川県立保健福祉大学（殿町キャンパス）の久保田研究室が、キングスカイフロントでの事業に携わる皆さんを対象にアンケートによる「お口の健康調査」を実施しました。この初めての試みに約 400 名もの多くの方が参加。調査の背景と気になる分析状況について、発起人である歯学博士の久保田悠様にお伺いしました。

大人も定期的な歯科健診を

子どものころ、学校で歯科健診を受けた記憶のある方も多いのではないでしょうか。う蝕（むし歯）や歯周病（歯ぐきの病気）に代表されるお口の病気は生涯を通じてかかりやすいため、定期的な歯科健診がお口の健康を保つために非常に重要です。そのため、日本では子どもの歯科健診が義務化され、継続的なフォロー体制が整えられてきました。一方で、大人の歯科健診は任意であり、定期的な歯科の受診は個人の意識や生活環境に大きく左右されるため、大人におけるお口の健康状態は個人差が大きいのが現実です。そのため、2022 年に閣議決定された「生涯を通じた歯科健診（国民皆歯科健診）」を受け、特に働き世代を対象とする施策の根拠となる調査・研究が進められています。職域における調査もその一環です。キングスカイフロントは、バイオ、ヘルスケア、運輸、製造等の様々な企業・機関が集積するエリアですので、地の利を活かした職域調査ができるのではないかと考えました。

オーラルフレイル予防は働き世代から

職域における歯科健診が重要視されている理由は、主に 2 つあります。1 つ目は、職種によって歯の健康リスクが異なることが分かってきた点です。たとえば、不規則な生活を送る働き方では、むし歯や歯周病のリスクが高まることが知られています。歯科予約が取りづらかったり、治療の継続が難しかったりといった理由で、歯の状態がさらに悪化するという、いわば「負のサイクル」に陥りやすい傾向があるからです。2 つ目は、「オーラルフレイル（口腔機能の衰え）」の予防です。高齢になると、うまく噛（か）めない・飲み込みづらいといった症状が現れますが、これはある年齢で突然起こるものではなく、年齢を重ねるなかで徐々に進行していくと考えられています。そのため、働き世代の段階から「兆候はいつから始めるのか」「働く環境や健康状態とどう関係するのか」といった点を調査することで、将来の予防に役立てられればと考えています。

キングスカイフロントの調査では 2 割

今回の調査には約 400 名の方にご参加いただき、そのうち約 370 名を対象にデータ分析を進めています。年齢層は 40～50 代が中心で、日本の働き世代を代表するような構成です。特筆すべきは男女比で、他の職域調査では男性の比率が高い傾向にあるのに対し、キングスカイフロントでは男女比がほぼ半々となりました。職種は研究職・技術職・開発職の割合が多くみられました。調査では、オーラルフレイルに関連する 5 つの項目（①歯の本数、②咀嚼《そしゃく ※噛むこと》、③飲み込み、④会話、⑤口の乾き）についてお伺いしました。現在も分析中ですが、対象者のおよそ 2 割がオーラルフレイルに該当することが分かっています。70 歳代の高齢者においては 3 割該当との別調査もあり、この「2 割」という数字を高いと捉えるべきか、あるいは低いと見るべきかは、他の職域調査や年齢層ごとの比較データを収集し、今後検証する必要があります。また、プレゼンティーズム（仕事に集中できない、仕事で冷静な判断ができなかった等に代表される業務効率の低下）に関する項目も設けており、オーラルフレイルとの関連性についても、今後分析を進めたいと考えています。

調査に関連して、「噛む力の測定」等のイベントを実施したところ、ご自身のお口の健康について関心を持つきっかけになった参加者もいらしたようです。今後も調査やイベント等を通じて、皆さまの健康維持に貢献できたらと思います。

目指すは地の利を活かした研究コラボレーション

2025 年度は今回の結果を踏まえ、新たな切り口での調査を予定しています。たとえば、更年期とオーラルフレイルの関係性や、女性のライフステージと歯の健康リスクといったテーマにも注目していきたいと考えています。将来的には、今回の調査を論文としてまとめたり、学会で発表したりするなど、得られた知見を社会に還元したいと思います。また、キングスカイフロントの強みは「地の利」ですので、立地機関とコラボした研究も目指したいです。



久保田研究室について ▶



ニイガタは、研究開発サービスをご提供しています。研究開発者のご相談、ご依頼には何一つとして同じものではありません。そこには「やってみないと分からない」、作ってみないと知ることのできない、お客様と一緒に踏み込まないと見えない世界が存在しています。私たちはそれを研究開発サービスとして捉え、お客様の研究開発に関するパートナーとして共に考えます。幅広いフィールドで、課題解決に向けた新しい価値の創出をご支援いたします。

《ご依頼例》

- ・ラボ～パイロットスケールまで、概念実証装置（特注装置）の設計製作
- ・試作～量産まで、製品の共同開発 / 技術コンサルティング
- ・様々な運用ケースを想定した課題洗い出し、解決手段の提案



詳しくはこちら



Event Report

「再生・細胞医療」スタンプラリー in キングスカイフロント

神奈川県は、「再生・細胞医療」の産業化を推進する取り組みをわかりやすく伝えるため、大人気アニメ「はたらく細胞」とコラボレーションしたスタンプラリーを、キングスカイフロントで開催しました。8月12日から14日の3日間限定で、3つのスポットに設置されたスタンプをすべて集めた方に限定プレゼントを贈呈。期間中は、朝から親子連れで賑わいました。



詳しくはこちら



セラヘルスケア
サービス株式会社
千葉 徹太 さん



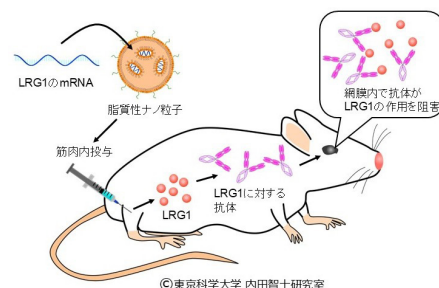
トノビトとは、キングスカイフロントで働く人々の人柄や素顔をご紹介します、交流のきっかけを届ける連載企画です。

再生医療等製品の製造受託や施設の設計・施工、運用支援を行うセラボヘルスケアサービス株式会社で活躍する千葉さんにお話を伺いました。入社後は施設や機器に関する知識を吸収し、製造業務に加えて施設管理や衛生管理まで幅広く携わっています。大学時代、自ら掲げた研究テーマ『がん細胞の三次元培養モデルを用いた新規抗がん剤の探索』で得られた経験が、現在の品質管理の基盤となっているそうです。細胞を扱う仕事は患者さまの健康に直結するため常に緊張感がありますが、製造から品質検査のプロセスを経て無事に製品が出荷された時には「未来の医療を形作ること貢献している」と大きなやりがいを感じるとのこと。キングスカイフロントで働く魅力については「再生医療に挑む企業や研究者が集まり、知識や経験を共有できる貴重な場で、企業間の連携が図れるのでありがたい」と語ってくれました。趣味は釣りやゴルフで、「ラウンド後のお風呂とお酒が醍醐味」と笑顔を見せます。未来の医療に真剣に取り組む姿と、趣味を語るときの柔らかな笑顔。そのギャップが千葉さんの魅力を際立たせています。

iCONM NOW 眼底部毛細血管の異常増殖を抑えて失明を防ぐワクチンの開発

東京科学大学総合科学研究院の内田智士教授（iCONM 主幹研究員）らの研究グループは、横浜市立大学大学院医学研究科の柳靖雄客員教授との共同研究により、失明の原因疾患となる加齢黄斑変性の治療ワクチンを開発し、マウスでその効果を実証しました。加齢黄斑変性は、眼底部における毛細血管の異常増殖により網膜（カメラのフィルムに相当）が凹凸に変形することで視野中心部がはっきり見えなくなる眼疾患です。病状が進行すれば見えにくい部分が拡がり失明を招くこともあります。現在、唯一の治療法は、血管新生を促す VEGF（血管内皮増殖因子）の働きを抑制する抗体医薬を眼内に注射する方法ですが、月1回とはいえ、進行を抑えるために眼に針を刺すことに抵抗を感じる人は少なくなく、治療途中で通院しなくなる患者さんが多いという現状があります。

内田教授らが開発した手法は、LRG1 という血管の増殖や炎症を促すタンパク質を抗原に見立て、その抗体を産生する mRNA ワクチンを筋肉に注射する方法です。この方法だと、コロナワクチン同様、注射部位で産生された抗体が眼底部に届き、網膜変形の原因物質として血管増殖に関わる LRG1 の作用を抑制します。眼内注射と比べて患者さんの身体的精神的負担は大きく軽減されます。本研究の一部は、プロジェクト CHANGE の予算で賄われており、生活の質を大きく損なうばかりか介護の負担も大きい「失明」という大きなイベントを回避することで健康長寿社会の樹立に貢献します。



原著論文：Y. Yanagi et al., Vaccine, 61, 127451 (2025).

<https://doi.org/10.1016/j.vaccine.2025.127451>

筋肉内に注射されたワクチンが LRG1 抗体を産生し
新生血管の増殖を抑制する仕組み

本誌ではキングスカイフロント立地機関に関するさまざまな情報を発信しています。ご意見・ご感想などを QR コードのアンケートにぜひお寄せください。また、ニュース掲載のご依頼等のお問合せは下記のメールアドレスよりお送りください。

発行日：2025 年 10 月 22 日

発行元：公益財団法人川崎市産業振興財団 殿町キングスカイフロントクラスター事業部

Mail：pr-ksfcl@kawasaki-net.ne.jp

